

教育実習Ⅰ（小学校）の報告

広島文教大学教育学部教育学科

准教授 三田 幸司

1 はじめに

本科目は、小学校における本実習（教育実習Ⅱ・Ⅲ）に臨むにあたって、実習生としての確かな心構えと教育実践力を養うことを目標とする。まず全体会において、前年度までに履修した「児童の理解」、「学校教育の体験活動（小）」等における観察・参加実習での体験や、各教科教育法での学びをふり返り、教材研究や学習指導案作成の仕方などをより深く学習する中で、事前に取り組むべきことを明確にする。グループに分かれてからは、教材研究・題材開発、模擬授業・事後協議に取り組む。また、空きコマなどを活用して、指導案等について担当教員から指導を受けたり、学生同士で模擬授業の練習を行ったりする。最後に、全体研究授業（代表学生による模擬授業）と協議会を実施するとともに、全体会を行って後期の教育実習Ⅱ・Ⅲへとつないでいく。

2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前ガイダンス、全体会Ⅰ・Ⅱ	1月～4月	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次後期の1月下旬（または2月初旬）に事前ガイダンスを行い、教育実習Ⅰの趣旨・スケジュールや春期休業中の課題などを確認し、グループメンバーおよびグループ毎の目標を決定する。 ・担当教員からのアドバイス（教材研究のポイント、教科書・指導書などの資料の活用法、指導案の提出・添削の方法など）、春期休業中の課題の提出、第1クール担当教員と模擬授業の打ち合わせなどを行う。 ・担当教員による示範授業と協議会を体験するとともに、今後の取組についての打ち合わせをグループ毎に行う。 ・ルーブリック（授業評価票）を配付し、評価規準（基準）、評価方法について担当教員から説明する。
グループ別模擬授業	4月～7月	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究や題材開発に取り組み、学習指導案を作成する。担当教員と模擬授業に関する事前打ち合わせを行う。模擬授業をするにあたり、事前に模擬授業の練習を自主的に行う。 ・グループ毎に模擬授業と事後協議に取り組む。
全体研究授業Ⅰ・Ⅱ、全体会Ⅲ、事後学修	7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者による模擬授業（模擬授業45分間×2・研究協議会40分間）を行う。 ・担当教員による激励、教育実習Ⅰのふりかえり、課題（学習指導案のデータ・プリント、自己評価シートなど）の提出をする。 ・夏期休業中、グループ別で模擬授業に自主的に取り組み、後期の教育実習Ⅱ・Ⅲに備える。

3 活動の概要

(1) グループおよび担当授業科目（受講者総数81名）

昨年度は受講者総数が80名を切っていたことから、各グループの人数が10名以内となり、毎回3つの模擬授業を行ったが、今年度は受講者総数が80名を超えたことで、11名のグループが二つでき、それらのグループでは1回に4つの模擬授業を行うことが3回あった。

グループ (人数)	模擬 ①	模擬 ②	模擬 ③	模擬 ④	模擬 ⑤	模擬 ⑥	模擬 ⑦	模擬 ⑧	模擬 ⑨	模擬 ⑩
A (9名)		国語			音楽			理科		体育
B (10名)		英語			国語			体育		理科
C (11名)		理科			体育			国語		音楽
D (10名)		体育			理科			英語		国語
E (10名)		社会			英語			算数		道徳
F (10名)		図画工作			社会			道徳		算数
G (10名)		算数			道徳			社会		英語
H (11名)		道徳			算数			図画工作		社会

昨年度までは、第1回と第2回に全体会Ⅰ、全体会Ⅱを行い、模擬授業は第3回からスタートしていたが、本格的な指導が始まる全体会Ⅰから模擬授業開始まで2週間しかなく、学生の授業準備や教員の指導を充分に行うことが難しいため、今年度は第1回から第3回までを全体会として授業づくり等についての指導を充実させ、模擬授業をゴールデンウィーク明けの第4回から行うことにした。これに伴い、昨年度までは第10回の全体会Ⅲで行っていた中間のふり返りや全体研究授業を行う代表者決め等は授業外の時間を利用して行った。

2021年度（当初の予定）	2022年度
(1) 4/17：全体会Ⅰ	(1) 4/14：全体会Ⅰ
(2) 4/22：全体会Ⅱ	(2) 4/21：全体会Ⅱ
(3) 4/29：第1クール 模擬授業Ⅰ	(3) 4/28：全体会Ⅲ
(4) 5/ 6： 〃 模擬授業Ⅱ	(4) 5/12：第1クール 模擬授業Ⅰ
(5) 5/13： 〃 模擬授業Ⅲ	(5) 5/19： 〃 模擬授業Ⅱ
(6) 5/20：第2クール 模擬授業Ⅰ	(6) 5/26： 〃 模擬授業Ⅲ
(7) 5/27： 〃 模擬授業Ⅱ	(7) 6/ 2：第2クール 模擬授業Ⅰ
(8) 6/ 3： 〃 模擬授業Ⅲ	(8) 5/ 9： 〃 模擬授業Ⅱ
(9) 6/10：第3クール 模擬授業Ⅰ	(9) 6/16： 〃 模擬授業Ⅲ
(10) 6/17：全体会Ⅲ	(10) 6/23：第3クール 模擬授業Ⅰ
(11) 6/24：第3クール 模擬授業Ⅱ	(11) 6/30： 〃 模擬授業Ⅱ
(12) 7/ 1：第4クール 模擬授業Ⅰ	(12) 7/ 7：第4クール 模擬授業Ⅰ
(13) 7/ 8： 〃 模擬授業Ⅱ	(13) 7/14： 〃 模擬授業Ⅱ
(14) 7/15：全体研究授業	(14) 7/21：全体研究授業
(15) 7/29：全体会Ⅳ	(15) 7/28：全体会Ⅳ

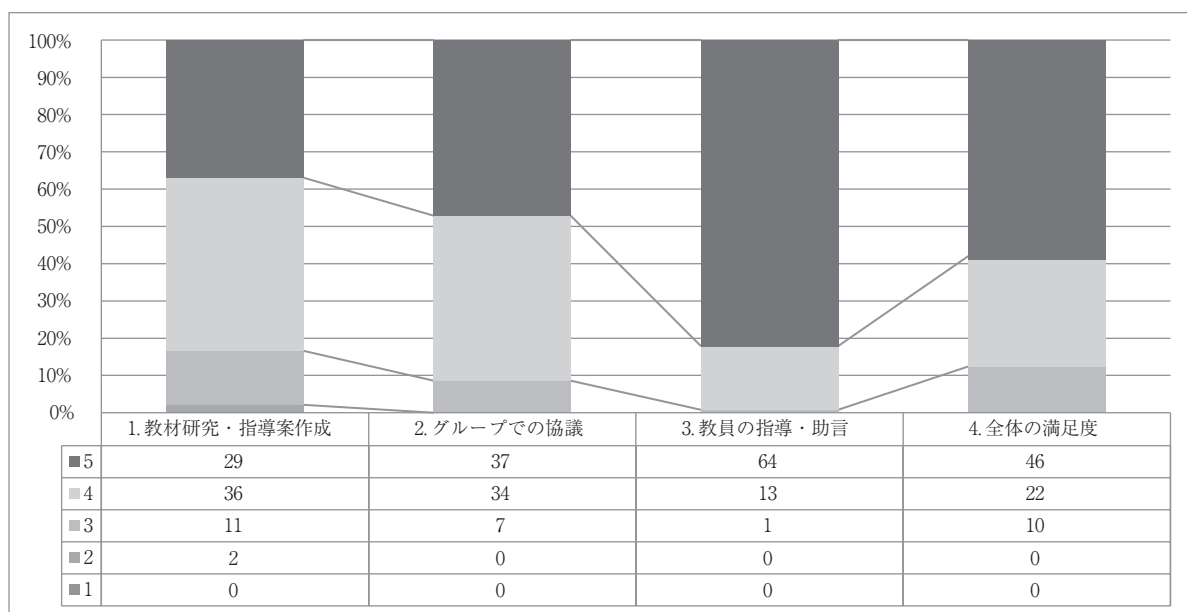
本年度は、10回の模擬授業・事後協議を対面で行うことができたことに加えて、昨年度は実施できなかった全体研究授業も対面で行うことができた。全体研究授業の代表授業者を決める際には、ほとんどのグループから複数の立候補者が出た。当初の計画では代表授業者は4名としていたが、学生の意欲を尊重し、加えて、会場を分散して密を避けるために、8つのグループから1名ずつ選出し、1会場20名程度で全体研究授業と協議会を行った。

研究授業1（教室等）	研究授業2（教室等）	協議会場
Aグループ代表 音楽（模擬授業室）	Gグループ代表 算数（模擬授業室）	模擬授業室
Fグループ代表 社会（模擬レッスン室Ⅰ）	Bグループ代表 国語（模擬レッスン室Ⅱ）	模擬レッスン室Ⅱ
Cグループ代表 体育（体育館）	Eグループ代表 社会（模擬レッスン室Ⅰ）	模擬レッスン室Ⅰ
Hグループ代表 道徳（122教室）	Dグループ代表 英語（122教室）	122教室

なお、毎回のコメントシートや全体振り返りシート（自己評価票）等の提出については、昨年度と同様にGlexaを活用した。

（2）教育実習Ⅰ：全体振り返りシート（自己評価票）の集計結果（回答者78人、回答率96.3%）

最終講において、自己評価票（Glexa）による調査を行った。「1. 自分自身の教材研究、学習指導案作成の取組」、「2. グループでの指導案検討・協議」、「3. 担当教員の指導・助言」、「4. 授業全体の満足度」の4観点についての満足度を5段階（5が最高、1が最低）で学生に評価させた。結果はグラフの通りである。



【令和4年度・教育実習Ⅰ自己評価票 集計結果（A～Hグループ）】

4 成果と課題

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大を受けて教員による示範授業（体育）は体育館で距離をとりながら実施できたものの、学生による模擬授業の回数は少なく、代表学生による全体研究授業は実施できなかった。しかし今年度は、教員による示範授業や模擬授業のすべてを対面で行うことができ、加えて、全体研究授業も実施できた。特に、全体研究授業の代表授業者を各グループから選出した際には、メンバー全員が立候補したグループもあったほど学生の積極性が見られた。全体研究授業につ

いては、これまでは、代表授業者と当該教科の指導教員の負担の大きさが課題として挙げられましたが、全体研究授業は教育実習Ⅰの集大成として行うこととし、授業づくりや準備は各グループ内で協力・分担するように指示すると共に、教科担当教員の指導は必要に応じて受けてもよいことにした。

今年度も、担当教員による学生の評価と学生による自己評価にループリックを活用した。そして、担当教員による協議の上、最終的に評定を決定した。また、学生による自己評価結果（【令和4年度・教育実習Ⅰ自己評価票 集計結果（A～Hグループ）】参照）を昨年度の結果と比較したところ、「1. 教材研究・指導案作成」、「4. 全体の満足度」に対する回答については、最も肯定的な回答である選択肢5の割合が20%程度上昇していた。

課題としては、来年度は受講者総数が今年度よりもさらに10名以上増加する予定であることが挙げられる。昨年度までは、1回の授業時間135分間（1.5コマ）の中で、約15分間の模擬授業を3本（授業者交代時間を含め合計約55分間）行った後に、各々の模擬授業について約25分間の協議・指導を行っていき、10回の授業で各グループ合計30本の模擬授業を実施してきた。また、各グループ10名以内であったため、8つのグループでそれぞれの学生に3回ずつの模擬授業を実施させることができていた。本年度は受講者総数が81名で80名を超えたが、これまでどおり8グループで行ったため、11名のグループでは1回に4本の模擬授業を行うことになり、協議の時間が他のグループよりも短くなるということがあった。これらのことから、来年度はこれまでのシステムを大きく変更し、例えばグループ数を8から9へ増やすことや、10回の模擬授業を11回へ増やすこと等を検討していく必要があると考える。

参考・引用文献

- ・佐伯育郎「教育実習Ⅰ（小学校）の報告」（『広島文教大学 教職センター年報 2021年 第9号』広島文教大学教職センター，令和3年）
- ・三田幸司「教育実習Ⅰ（小学校）の報告」（『広島文教大学 教職センター年報 2022年 第10号』広島文教大学教職センター，令和4年）